

第 1 章 再整備基本計画について

1-1 計画の目的

中央公園は、市中心部に位置する公園として、昭和 45 年に開設以来、遊びや休憩、イベント会場などの様々な活用を通じて、市民の憩いの場であると同時に、地域活性化に寄与する役目を担ってきた公園です。開園から約 50 年が経過し、施設老朽化が目立つとともに「トイレの位置」や「南側広場との高低差」という課題がありながらも、「沼津夏まつり」や「THIS IS NUMAZU (沼津自慢フェスタ)」など、市内外から集客するイベント会場として、また狩野川河川敷との一体的な利用等、他の公園にはない多様な活用がなされています。

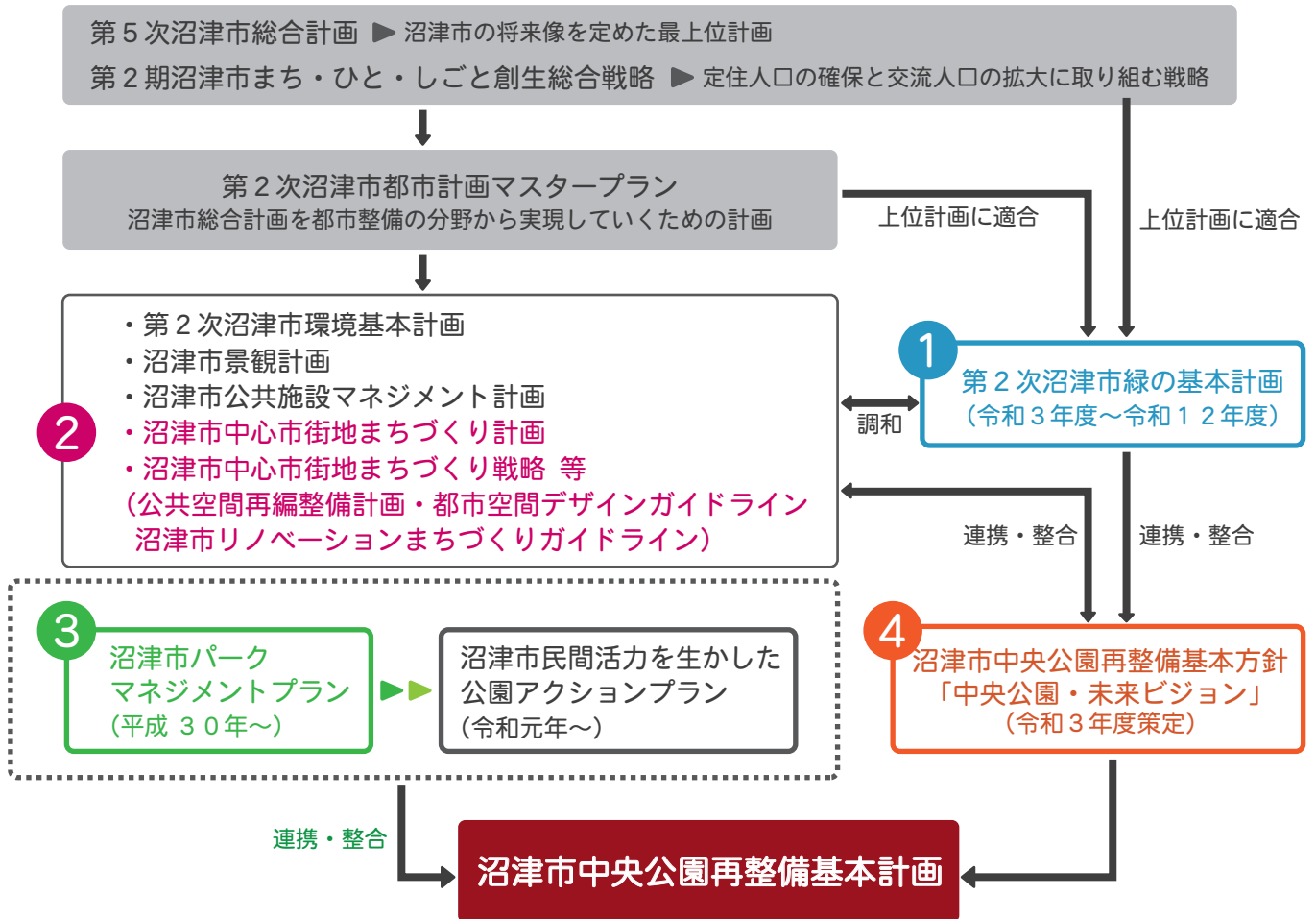
一方、本市では、沼津駅周辺総合整備事業による交通環境や市街地構造の大幅な改善を契機に、沼津駅周辺を車中心からヒト中心の魅力ある場所へと再生し、多くの市民や来街者が集い、交流し、住まい、回遊する都市の顔として再構築していくために、沼津駅周辺総合整備事業の本格展開と併せて実施すべき、まちづくりの施策の方向性を示す「沼津市中心市街地まちづくり戦略」を令和 2 年 3 月に策定するとともに、令和 3 年度から施行した「第 2 次沼津市緑の基本計画」においては、「緑とともに魅力あふれる沼津の暮らし」を実現するため、4 つの基本方針を設定しました。このうち、基本方針 3「つかう緑 多様な主体による緑地空間の利活用」を掲げ、公園の利活用を通じて更なる魅力増進を図るものとしています。また、緑化重点地区として「沼津駅周辺地区」を設定し、中央公園の施設機能強化や中心市街地の公園に相応しい利活用の促進を取組みとして掲げています。

本計画は、近年、公園緑地全般において、より効果的・効率的な維持・管理運営が求められる一方で、市民ニーズの多様化・高度化への対応が求められるなか、令和 3 年度に策定された再整備基本方針「中央公園・未来ビジョン」をもとに、有識者からの意見聴取や市民・利用者・民間事業者等を交えたワークショップを通して検討した中央公園の再整備に向けたハードのあり方、将来を見据えた公民連携による持続的な維持・管理運営のあり方をまとめたものです。



1-2 計画の位置づけ

本市では沼津駅周辺総合整備事業の本格展開に伴い、ヒト中心のまちづくりを進めています。大規模で長期事業でもある沼津駅周辺のまちづくりと連携し、中央公園再整備はヒト中心のまちづくりをリードする存在として位置付けられています。



① 第2次沼津市緑の基本計画

緑の「質」を高め、魅力あふれる市民の「暮らし」を創出することを目指し、公園緑地に関する4つの方針ごとに、市内における緑地や公園を分類し、令和12年度までの緑地への活動を推進していくこととしています。中央公園においては、多様な主体による緑地空間の活用を進める「つかう緑」の方針に則り、利活用しやすい仕組み作りや民間事業者等の取組支援、多様な主体との連携を目指すことが求められています。

② 沼津市中心市街地まちづくり計画・戦略

中央公園を含む狩野川周辺エリアを、狩野川を介して多様な交流が生まれる「健康・文化・交流ゾーン」の形成を目指しています。また、「沼津市中心市街地まちづくり戦略」では、沼津駅周辺の市街地をヒト中心の魅力ある場所へと再生させ、人々の交流や回遊が生まれる都市を目指したまちづくりの施策の方向性を示しており、これらの公共空間の配置や市街地環境の向上等の観点も意識しながら、中央公園はイベント等による賑わいの創出や日常的に人々が利活用のできる空間の実現を目指します。

③ 沼津市パークマネジメントプラン

多様化するニーズや地域課題に柔軟に対応するため、良好な公園緑地環境の創出と活性化を目指し、柔軟な公園緑地の維持・管理運営のあり方をまとめたものです。中央公園では、行政単体による維持管理ではなく、行政に加えて民間事業者や日常的に利活用する市民による管理運営を目指します。

④ 沼津市中央公園再整備基本方針「中央公園・未来ビジョン」

中央公園活用実績や課題を踏まえ、再整備事業の効果的かつ計画的な推進を図るための再整備方針です。

1-3 歴史(変遷)

現在の中央公園は、かつての三枚橋城、沼津城の本丸跡地でもあります。明治期には沼津兵学校寄宿寮が立地するなど、時代の移り変わりとともに施設も変化してきました。現在の中央公園は、旧静岡地方裁判所沼津支部の跡地を財務省から無償貸付を受け、本市で整備を行い、昭和45年に都市公園として開園しました。

歴史と変遷

安土桃山

三枚橋城 (1579年～1614年)

三枚橋城は、「北条氏政書状」によると天正7(1579)年、武田勝頼が築城したとされています。慶長19(1614)年、三枚橋城は廃城となり、以後160余年間、沼津に城はありませんでした。

江戸

沼津城本丸 (1777年～1873年)

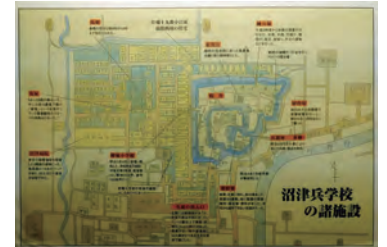
江戸時代の安永6(1777)年に、かつての三枚橋城の城地と重なるように築城されており、三枚橋城と比べ規模は小さく、富士を背後に南は狩野川から千本松原越しに駿河湾が臨まれました。沼津は宿場町・城下町として発展し、現中央公園の場所には沼津城の本丸が置かれていました。また駿河湾の潮が見えることから観潮城という別名もあったと言われています。



明治

沼津兵学校 (1868年～1872年)

明治元(1868)年、旧沼津城に沼津兵学校が開校され、江戸幕府が残した膨大な書籍やスタンホープ印刷器などの器械、優れた人材の活用が図られました。二の丸の御殿が校舎とされ、本丸には寄宿寮が置かれました。徳川家の家臣である14歳から18歳を対象に、最新の学問を教授する士官養成機関として、近代日本の学制、兵制の確立に大きな影響を残しました。



現在

中央公園 (~現在)

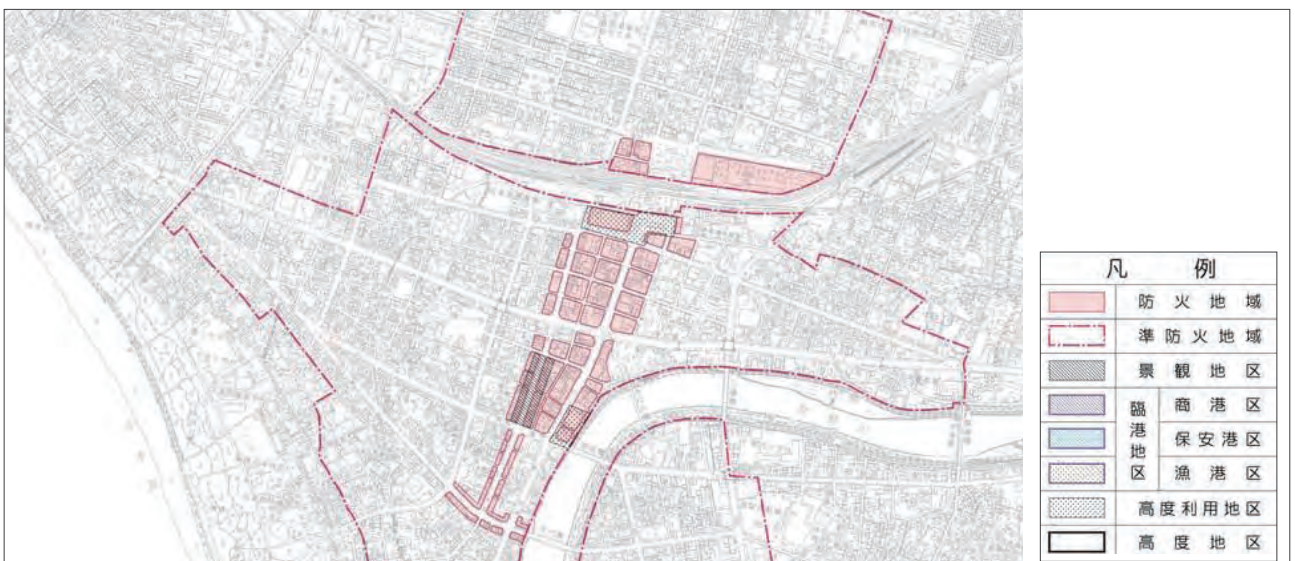
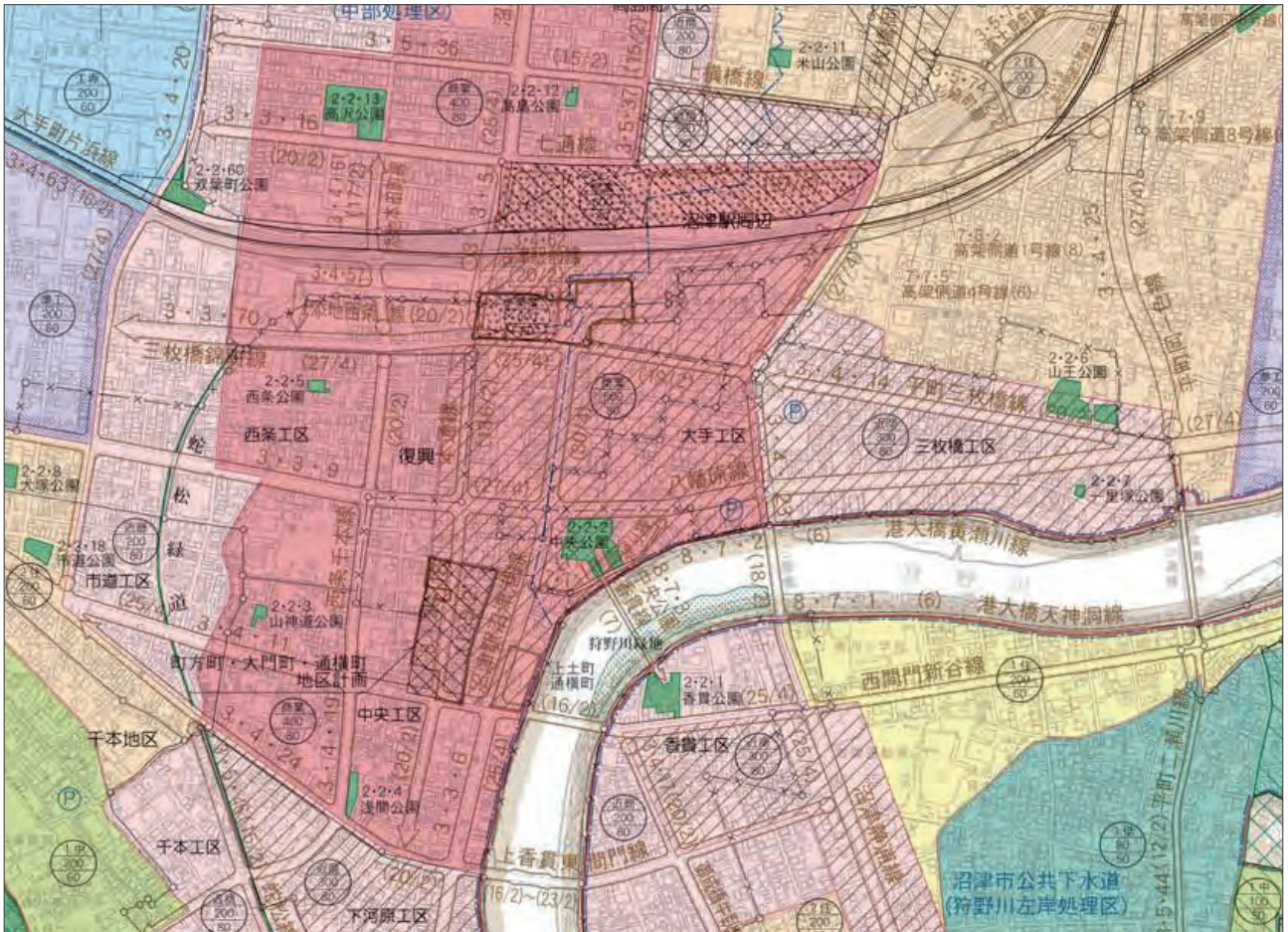
現在はあゆみ橋への動線も含んだまちなかを代表する公園で、散歩や憩いの場としての利用や環境美化を行うラジオ体操友の会、スケートボード等の多様な利用が見られます。また、イベント時には沼津市内外からの多くの集客があり、かのがわ風のテラスと連携した活用も見られます。

なお、公園内には、まちの中心としてこの場所が担ってきた役割や歴史を物語る沼津城記念碑やモニュメントが設置されています。



1 - 4 周辺の土地利用

中央公園周辺の土地利用は商業地域に位置付けられており、中央公園は準防火地域に位置しています。



沼津都市計画総括図

1 - 5 周辺の環境

沼津駅の南側には複数の商店街が形成されており、衣料品や日用品の小売店舗や飲食店をはじめ、企業の支社、支店等も数多く立地しています。近年の情報化の進展や企業活動の合理化等を背景に、空き店舗等が増加傾向にある一方、意欲ある市民による空き店舗等を活用したリノベーションまちづくりにより、小規模ながらも新しいビジネスが生まれています。

沼津駅



沼津駅前



①沼津駅前名店街



②仲見世商店街



③大手町商店街



④新仲見世商店街



⑤アーケード名店街



⑥銀座通り商店会



⑦あげつち商店街



⑧本町区商店連盟



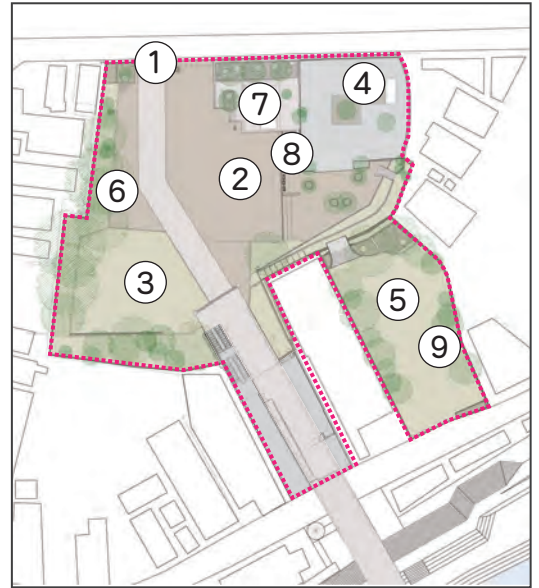
1 - 6 現状

公園概要

所在地	沼津市大手町4-185-4
公園の種類	街区公園
面積	6,100㎡
開設年月日	昭和 45 年 6 月 30 日
都市計画の位置付け	市街化区域（商業地域） 準防火地域内の都市計画公園
歴史的な位置付け	三枚橋城・沼津城の本丸跡 沼津兵学校寄宿寮跡
公園の所有・管理	沼津市

災害時情報

沼津市地域防災計画	避難地（防災倉庫あり）
狩野川・黄瀬川洪水ハザードマップ	浸水 3～5m 想定 （想定最大規模レベル2）



現在の公園の状況



1-7 使われ方

中央公園は、平日は朝のラジオ体操、ちょっとした休憩、午後には子どもたちの遊びの場として、休日には定期マーケット「週末の沼津」のほか、様々なイベントや祭りの会場として利用されています。

平日の風景



日中はあゆみ橋への通り抜けやちょっとした休憩場所となっている。



夕方になるとスケートボードや自転車（BMX）を楽しむ人が集まる。



午後、学校が終わった子どもたちの集合場所になっており、陽が暮れるまで遊ぶ様子が見られる。



南側は小さな子どもを連れた親子がブランコで遊ぶ姿がある。

平日は、休憩する人や子どもを遊ばせるママ、放課後の子ども達、スケートボードなどを楽しむ若者の姿があるものの、比較的閑散としています。子ども達からは、「雨の日や冬の寒い日は、公園内に居場所がなく、みんなで集まらない」との声も聞かれました。

定期マーケット「週末の沼津」の風景



週末の沼津Facebook
<https://www.facebook.com/numazuweekend/>

沼津のライフスタイルをより豊かにしていくことを目指した定期マーケット「週末の沼津」。中央公園を舞台に、暮らしに寄り添った素敵な風景を描き、新しい価値を創り出す取組みとして定着しています。

イベント時の風景



中央公園を代表するイベント「THIS IS NUMAZU」。中央公園・かのがわ風のテラス・あゆみ橋が一体的な会場となる。



春と秋に開催される「みどりまつり」。2022年の秋の「みどりまつり」は「週末の沼津」と共催された。



沼津 smile マラソン (2022 年)

痛車の祭典 (2022 年)

イベントの規模や内容に応じて会場レイアウトが工夫され、多様な風景が創り出されていますが、主に北側（上）の広場がメイン会場となり、南側（下）がバックヤードとして使われています。

